## Revorf

Revorf、量子コンピュータ研究から生まれたシミュレーテッド分岐マシン™に関して、 東芝の「Toshiba OPEN INNOVATION PROGRAM 2021」に採択

> 2021年7月19日 株式会社 Revorf

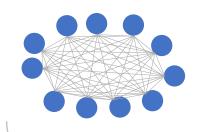
株式会社 Revorf (本社:東京都中央区、代表取締役:末田伸一、以下「Revorf」) は、この度、 量子コンピュータ研究から生まれたシミュレーテッド分岐マシン™に関して、株式会社東芝 (本社:東京都港区、代表取締役:綱川智、以下「東芝|) の「Toshiba OPEN INNOVATION PROGRAM 2021」に採択されました。

同プログラムは、東芝グループがその持つビジネスアセット・先端技術を活用し新たなイノ ベーションを起こす熱意を持つ企業を募集し、東芝グループとの協業を通じて応募企業の 事業化の加速を支援するプログラムです。東芝グループは、東芝グループの長年にわたる研 究開発の成果、事業実践から創り上げた顧客基盤、製品、ソリューションとの協業を通じて、 応募企業の事業拡大・加速を積極的に支援する予定です。

本プログラムにて、Revorf は東芝グループの持つシミュレーテッド分岐マシン ™(以下 「SBMI)を活用した東芝グループとの協業の検討を実施します。SBM は、東芝グループの 量子コンピュータ研究から生まれたソフトウェアとして実装可能な世界最速・最大規模の 組合せ最適化ソルバであり、実問題への適用が期待されています。Revorfは、その保有する バイオインフォマティクス技術、医学・創薬の知識やノウハウを基に創薬における特定の課 題を組合せ最適化問題として定式化し、これの SBM による高速解決を活用した新しい効率 的な in silico 創薬手法の基盤構築を図ります。

## 創薬課題を最適化問題にし、創薬手法基盤を構築

Revorが 創薬における特定の課題を バイオインフォマティクス技術により 組合せ最適化問題として定式化



東芝グループの 量子コンピュータ研究から生まれた シミュレーテッド分岐マシン™で 組合せ最適化問題を高速処理



(引用:東芝HP)

新しい効率的なin silico創薬手法の基盤構

Revorf は、理化学研究所や京都大学での研究を基にした mRNA や eRNA 等の RNA 検出解析 技術と、医師兼エンジニアらによるデータ分析・AI 開発の技術とを掛け合わせ、未踏遺伝子 から疾患関連遺伝子を発掘する創薬・医療技術基盤手法の確立を目指しております。

Revorf は、引き続き企業や研究機関とともにかかる創薬・医療技術基盤手法の革新を推進して参ります。

株式会社 Revorf

HP: https://www.revorf.jp/

本件に関するお問い合わせ先:information@revorf.com